

2024年8月25日発行

VOL.0038

第38号

地域生活サポートセンターぴぼっと南光台

ぴぼっと

南光台通信

発行： 社会福祉法人つどいの家地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」  
責任者： 三浦 郁美（管理者）  
住所： 981-8003 仙台市泉区南光台3丁目1-24  
連絡先： TEL 022-779-7341 FAX 022-779-7342



暑い日が続いておりますが、お変わりなくお過ごしでしょうか？

この季節ならではのイベントや行事など、楽しみがたくさんあり、いつもよりも忙しく感じることもあるかと思えます。私もつい、あれもこれもと予定を詰め込みたくなってしまっていますが、そんな時にふと思い出すことがあります。

ある利用者さんのご家族と移動支援の外出先について話をしていた時のことです。私は、せっかくの外出だからと色々なイベントを探したり、乗り継ぎ時間を調べて遠方への外出を提案したりしていました。しかし、ご家族から「時には近場に出掛けて、昼食を楽しんだり、帰る前に喫茶店でのおんびりお茶をしながら、外出できたことを味わう時間も大切。」とのお言葉をいただき、ゆったりとした時間の中だからこそ得られる癒しや満足感があることに気づかされました。

それ以来、仕事でも私生活でも、忙しくなりそうな時こそ「ゆっくり・のんびり」を意識するようになり、小さな喜びや感動を深く感じられるようになりました。

皆さんも時々、一息ついて、ゆったりとしたひとときを味わってみてください。

管理者 三浦郁美



## きょうだい支援プロジェクト



つどいの家きょうだい支援プロジェクトでは小学生対象のきょうだい会で、7月14日（日）旭ヶ丘市民センターにて『ヒップホップダンス』体験をしました。当日は松本育子さんを講師に迎え、ストレッチをしてから少しずつヒップホップダンスの動きに挑戦。難しい動きもありましたが、音楽にのってみんなで体を動かして、時に爆笑をしながら踊りました。はじめて会ったきょうだいさん同士も作戦会議をしながらポーズ対決に挑戦するなど交流もできたようです。終了後のおやつタイムでは学校の話や宝物の話などをして和やかに過ごしました。

7月27日（日）はスプリングバレー仙台泉スキー場にて、親子・家族参加のイベント『夏の遠足・バーベキュー』を行いました。6家族25名にご参加いただきました。

当日は生憎のお天気でしたが、霧や雨の合間に外のアトラクションで遊んだりジャンボ紙飛行機を作って斜面で飛ばしたりすることができました。バーベキューは大きなレストラン内で安全においしくいただきました。

参加してくれたきょうだいさん、ご家族の皆さま、ありがとうございました。



きょうだい支援  
プロジェクトサイト

今後も小学生、中高生のきょうだい会や親御さん向けの勉強会などを開催予定です。興味のある方は法人ホームページ内のサイトをご覧ください。各種お申し込みフォームもございます。

※病気やしょうがいのある方の兄弟姉妹をきょうだいと表しています。

事務 山口

## 非常勤職員研修会に参加して



7月1日、宮城県障害者福祉センターにて非常勤等研修が行われました。テーマは「家族と本人の想いを伺い、事業所の役割を考え今後の支援に活かす」というもので、今回は3名の保護者の方に講演していただきました。

保護者の方の生の声は、非常に勉強になり、かつ、考えさせられる内容でした。特に印象に残ったのは、「望まない支援は支援ではない」「特別扱いではなく配慮を」という言葉です。当たり前、利用者の方々は一入ひとり必要とする支援が違います。より良い支援を行うためには、利用者さん本人や保護者の方の「本音」をいかに知ることができるかが大切なのだと感じました。そのためにも、今まで以上に支援を通して利用者の方々と真摯に向き合っていきたいと思いました。

すてっぴ・はうす 高橋奈々恵

午前の講演は、心に響く言葉がたくさんありました。配慮する事と特別扱いする事は違う、医療的ケア児との関わりを怖がらずにまず関わって知ってほしい、人は誰と出会うかで人生は変わってくる…等です。出来ないことを諦める、もういいよ、ではなくどうしたら出来るか、どのようにすればご本人とご家族の希望に応えられるのかを考えさせられました。

午後からの研修内容はグループワークと映画鑑賞でした。グループワークでは運転手さん、調理の方、事務の方と違う業種の方からの意見や思いを聞くことができました。その後見た映画「ちづる」では、家族の本音がぶつかり合う様子、子犬を飼い始めてからのちづるさんの成長、ちづるさんと家族の将来の模索など、ちづるさんの笑顔がとてかわいらしく、見ているうちに段々引き込まれていきました。

ここ数年コロナ禍でオンラインの研修会でしたが、久々に対面になり一同に集うのは良いものだと思いました。今後の支援に活かしていきたいと思いました。

ぺんたす 熊坂久美子

## ちよこっとコラム ～支援について考える～

大学一年生の頃にボランティア活動で出会った友達の話です。

知的と聴覚にしょうがいのある同じ年の男の子で、漢字検定の勉強をしたり、居酒屋や買い物に一緒に行ったりしていました。彼は話しをすること、人と関わるのが好きで、コミュニケーションは手話やジェスチャー、筆談で行います。しかし、外出先の店員さんや、当時通っていた施設でも、みんなが手話を使えたわけではありません。また、補聴器をつけていますが、ワイヤレスイヤホンに見えたりして、周りの人から耳が聞こえないことに気づかれないことが多かったようです。

ある日、ハンバーガー屋で注文をする時に私が店員さんとの間に入って通訳をしようとする、「自分で選べから、大丈夫」と言われました。店員さんは戸惑いながらも、商品を指さしてコミュニケーションを取ってくれ、注文することができました。

このように、コミュニケーションがうまくいくこともあれば、そうでないときもあります。彼にはいろいろな力があるのに、周りの環境が障害になって、彼の持つ力が発揮できないと感じる場面も多くありました。もっと自由に外出をしてコミュニケーションをとることができれば、もっと彼らしくいられるのだらうと思います。

相手の態度によっては、伝えること、話すことを諦めてしまう事も多いのではないかと思います。みんなが手話で話せるようになる事は難しいかもしれませんが、ハンバーガー屋の店員さんのように、「向き合い伝えようとする、理解しようとする姿勢」は伝わり、他の人には無視されたけど、この人なら、聞いてくれるかも！と思ってもらえるはず。私もそのような姿勢をこれからも忘れないようにしていきたいです。

ぺんたす 長沢ひかり



# 強度行動障害研修



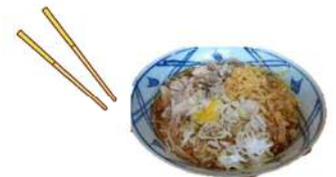
6月、7月に強度行動障害支援者養成研修の基礎・実践研修を受講しました！

「強度行動障害」は最近耳にすることが増えてきた言葉だと思います。これは障がいの診断名ではなく、周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が高い頻度で起きるため、特別な支援を必要としている「状態」を指す言葉です。強度行動障害の原因として、本人の障がい特性と環境が合っていないことが考えられています。

強度行動障害は、本人の「困っているサイン」と捉え、本人の特性や周囲の環境を把握し、行動の原因を分析することが大切だと学びました。

私が携わっている日中一時支援・短期入所事業は、生活介護事業所とは異なり、利用者さんが毎日通う事業所ではないので、月に数回しか同じ利用者さんと関わることがありません。そのため、本人が通う通所施設やご家族との情報共有がとても大切だと改めて感じました。利用者さんに快適に安心して過ごしてもらうためにも、支援者の環境構成や準備、そして本人の障がい特性を知ることが重要なことだとわかりました。  
(すてっぷ 横山)

## 「ぺんたす活動日記」



暑い日が続いていますが、皆さん体調崩されていないでしょうか？  
ぺんたすの活動についてお伝えしてみたいと思います。  
まず、ご利用していただく際に、ヘルパーとして気を付けていることは、入浴介助でも移動支援でも同様ですが、怪我なく安全に楽しく過ごしてもらえるように、日々考えながら利用者さんの支援に向き合う事です。



移動支援では、塩釜や岩沼、愛子、泉中央、定義などに、見学や散策、ラーメンなどを食べに一緒に歩かせていただいています。

活動中や、終了後に、利用者の方から笑顔を見せていただくと、支援してよかった、また楽しんでいただくために、次はもっと頑張ろうと思っています。  
(ぺんたす 工藤)



## 研修報告

ぺんたす 小原 翔牙



### 障害者福祉施設職員研修～意思決定支援の理論と実践～

講義は「意思決定支援を取り巻く法制度と意思決定支援の概要」（全国手をつなぐ育成会連合 又村あおい氏）でした。

そこで、まずは…意思決定支援とはなんぞや？

「意思決定支援」とは、意思決定に困難を抱える人が、日常生活や社会生活等に関して自分自身の希望が反映された生活を送ることができるように、その人を支援することやその仕組みのことを言います。

今回の研修の中で特に気になった話題は令和6年度の報酬改定において、入所施設で暮らす利用者さんに、『一人暮らしをしたいか』、『通所施設に通いたいか』等、地域生活移行についての意思確認が必要になるということです。

きっと、「一人暮らしをしてみたい」、「コンビニの近くに住みたい」、「仲の良い友人と暮らしたい」等、自分の生活を具体的にイメージして伝えられる方もいます。自分の暮らしの場を自分で選択することは、誰もが持っている当たり前の権利です。

しかし、入所施設で暮らす方の中にはそもそも一人暮らしや、今まで経験したことのない環境での生活をイメージしたり、希望を伝えたりすることが難しいという方が多いのではないのでしょうか。そして、そのような方に新たな暮らしの場を分かりやすく提案したり、イメージを共有したりできる支援者は実際どのくらいいるのでしょうか。

意思を決定する前に、まずは利用者さん自身が何を望むのか、何を伝えたいのか、どのように伝えたらイメージを共有できるのか、チームで検討できるような人材や環境の整備が重要であると感じました。

### 職員随想 ペんたす 大沼 真毅



つい先日、一冊の小説を読みました。

アーネスト・ヘミングウェイの「老人と海」という作品です。今年に入ってからまったく本を読まなくなってしまっていたので、本屋さんで読書欲を掻き立たせられるような物語を探していたところ、この本に出会いました。まずはタイトルと表紙に惹かれて手に取り、見覚えのある作者名に興味を湧き、裏表紙のあらすじを読んで、たまらなくこの物語世界に没入したいと思わされました。

八十四日間もの不漁に見舞われた老漁師が小舟に乗り、身ひとつで海へ出向き、釣綱にかかった巨大カジキを釣りあげようとする話です。物語の大部分は海で巨大カジキとの死闘を繰り広げる老人を描いており、雄大な海の情景と、決して屈しない老人の力強さがとても魅力的でした。読み切ったあとの余韻も素晴らしかった。

巨大カジキとの死闘の結末を明かすことはできませんが、この漁を終えて、老人は何を思うのか。

物語の結末は、ぜひ読んで確かめてほしいです。

とても読みやすく、分量もそこまで多くはない中編小説です。最近本を読んでいないという方でも、読み始めてしまえばあっという間に、文学の世界に引き込まれることと思います。



## 南光川清掃



6/9、南光川浄化清掃に参加しました。水草や藻が茂っていましたが、町内の方々と力を合わせて南光川をキレイにし、早朝から気持ちの良い時間を過ごすことができました。 三浦



## 地域ウォーキング清掃

6/26、今年もぴぼっと南光台の愉快的仲間たちはお揃いの「ぴぼっと南光台」のTシャツを着て、地域を歩きながら清掃をしました。掃除をすると心も清められる！？清掃した後のみんなの表情がすごくいい！ ペんたす 折原



## お知らせ

ついにあのパン屋さんが・・・  11月のぴぼっと南光台イベントのパン祭り(仮称)に登場します。詳細は現在調整中ですが、もろもろ決まりましたら、法人ホームページ等に情報を載せていきますのでチェックよろしくお願いします。

法人ホームページ 



## 編集後記

暑い日に実家の畑で作業をしていたら太ももに『ビッビッ！！』と衝撃が走りました。衝撃が走った方向を見てみると、害獣用の電気柵に引っかかっていた。衝撃は倒れ込むくらいではなく電気風呂を強くしたくらいでした。優しく作られていて安心しました。 ペんたす 小原